

(1) 時代背景

愛知万博は、人類が直面する課題の解決の方向性と人類の生き方を発信するため、国際博覧会に関する条約に基づく登録を受けて開催されるものであり、多数の国々の参加のもと、地球時代の新たな国際貢献として日本が主導的役割を果たすことにより、自然の叡智をテーマとした新しい文化・文明の創造を目指すものである。

21世紀初頭の国際博覧会として、次のような新たな時代性と課題を十分認識して開催する。

地球環境問題、資源問題等の深刻化

地球温暖化などの地球環境問題、資源制約や水・食糧問題などが深刻化する中、世界各国が地球的な視野で、不安から安心への知恵を持ち寄る必要がある。

IT時代の本格化

インターネットをはじめとするIT（情報技術）が急速に発展する中、社会構造・産業構造や社会生活の新たなあり方の提案が要請されている。

視野の飛躍的拡大

ボーダレス社会、過去から未来、遺伝子から宇宙までの果てしない視野の広がりが日常化している中、より広い視野からの取り組みが求められている。

価値観の多様化

人々の価値観が多様化する中、人類の共通課題の解決に向けて、また興味関心事の違いを前提として、如何に多様性を生かしたアプローチが可能か、如何にさまざまな生きる楽しさ、文化があるかの追求が必要である。

市民参加、NPO/NGOの大きな潮流

社会を構成する要素としての市民やNPO/NGOの役割が増大する中、新たな市民参加のあり方、さらには地球市民としての連帯のあり方が要請されている。

高齢社会への突入期

高齢社会が本格的に始まる中、福祉・介護の面のみならず、生きる自信と誇りを持って長寿を楽しむ社会意識の醸成、社会システムの追求が必要である。

地域間、民族間の対立の存在

様々な地域間、民族間の対立構造がなお存在している中、人類平和と協調に向け、私たちの子孫の幸せのために多様な文化が交流し多彩な人々が対話する友達づくりの機会が必要である。

(2) 開催目的

開催期間の前後を通じて地球規模での市民参加を得、人類と自然の関係に関する意識の大きな転換点となることにより、子どもから高齢者まであらゆる国の人々が生きる喜びや将来の夢を語り合うきっかけとなり、またこの地域に愛知万博の理念が受け継がれ、新たな付加価値を生み出す世界的な産業技術の中核圏域が形成される契機となる、未来への希望に満ちた博覧会となることを目指す。

時代背景と日本の現状をふまえ、愛知万博の主な目的を以下のとおり認識して開催する。

壮大な文化・文明創造事業

環境問題等が地球規模で深刻化し、人・モノ・情報の交流が地球規模で活性化する現在、独特の風土と特性に基づき培われた世界各地の文化・文明は、その多様性をアイデンティティとして継承しながらも、一方では地球規模での新たなアプローチが求められている。

愛知万博では、あらゆる事象、あらゆる分野において果敢に新たな挑戦と実験に取り組み、時代の先端的な社会モデルとなる文化・文明の創造と提案を行うことを目的とする。

多様な文化、価値観の交流の場

世界規模でのテロ行為や民族間、地域間紛争が激化し、多くの人々が生活への不安が掻き立てられている現在、多様な文化と価値観が共存共栄する安心平和な地球社会の構築が求められている。

愛知万博では世界各地からの参加者や来場者が、お互いの文化的背景や価値観の違いを認識し、国、民族、宗教、産業などを越えて手を取り合い、歓喜と感動を分かち合う場となることを目指す。

日本から世界への発信

日本は戦後、平和主義に徹し、産業技術に力を入れ、驚異的な経済発展を遂げ、豊かな社会になった。IT・ロボット・マイクロマシン・バイオテクノロジー・ナノテクノロジーなど高度な技術力は、今や世界の産業発展に貢献しつつあるが、同時に人類が直面する地球環境問題・資源問題などの解決にも大いに貢献することが期待されている。

愛知万博では世界に対して21世紀の人類が直面する問題の解決の方向と人類の生き方について発信し、国際社会における日本の存在価値を高めることを目指す。

現在から未来への発信

もはや大量生産・大量消費・大量廃棄型の経済発展が望めなくなりつつある現在、過去の成功体験の強い日本人は自信を失いつつある。しかしながら、今後、循環型社会を構築し、自然と共存するしくみができれば、新たな発展、真に豊かな生活を期待することができる。

愛知万博では、日本でも有数なものづくりの中心地であるこの中部地域の底力を発揮して積極的に未来に対する発信を行い、日本人の自信と夢を回復し、今日の日本が置かれている閉塞状況を打破することを目指す。

(3) 開催地域の地勢と特質

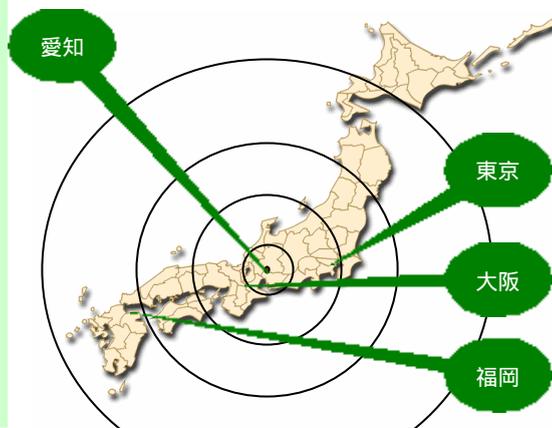
中部圏・愛知は日本列島の中心に位置するハートランド・オブ・ジャパン

愛知万博の交流の中心舞台となる中部圏・愛知は、文字通り日本列島の中心に位置し、日本の文化・歴史・社会システムの縮図ともなっている。

また、日本を代表する日本アルプス山系や白山山系等の山岳地帯に包摂され、そこを源とする美しい木曾三川は、豊かな生命を育む丘陵地帯と濃尾平野を流れ、伊勢湾に注ぎ、雄大な太平洋に連なる。

中部圏・愛知は、日本の地理と地勢の中心を占めるばかりではなく、自動車や鉄道における高速交通体系の要であり、2005年3月の愛知万博の開幕時には中部国際空港も開港される。

中部圏・愛知は日本の中心



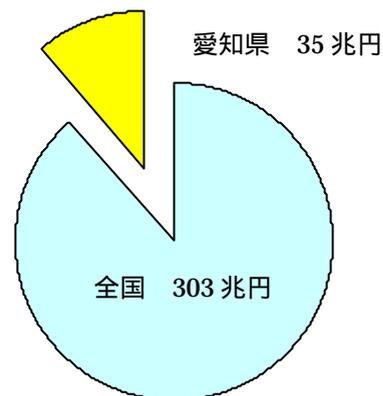
愛知・東部丘陵地域は、各々の時代でものづくりを先導してきたハイテクランド

愛知・東部丘陵地域は、古代・中世・近世・近代・現代の日本のものづくりを先導するハイテクランドとして活躍している。

1億年前のマグマの働きによって作り出された日本で最高と評価されるこの地域の陶土は、1300年前に陶磁器を中心とする焼き物を生み出した。また、織物を中心とする繊細な伝統工芸の500年に及ぶ歴史のほか、近代産業の基本となった鉄道、航空機、自動車等の乗り物の100年の歴史を背景として、愛知・東部丘陵地域は、高度な産業技術ともものづくりの知恵と人材を育むハイテクランドと言える。21世紀においては、環境関連産業の中心として世界に貢献することが期待される。

近年では、アジアや世界との交流を推進する「地球交流圏」づくりに取組むと同時に、21世紀の環境産業を先導する地域となることを目指している。

製造業出荷額



平成12年工業統計調査

開催地域は未来の産業文化観光を担う地域

ものづくりを中心に発展してきたこの地域には、歴史・文化資源に加え、数多くの企業博物館や産業遺産、最新の産業技術の集積などの産業文化観光資源が豊富にあり、日本三大都市圏の一つの中核都市である名古屋市を拠点に、将来の日本の産業文化観光を担う地域としての発展が期待されている。

開催地域のものづくりの経験と技術を生かすとともに、この地域を訪れる人々への産業文化観光を通じた啓発効果により、生命や宇宙への理解の深化、ITの実用化、また循環型社会のモデル形成などの実現が期待される。

愛知県内の産業文化観光施設分布



企業博物館、見学可能な工場など

(4) 開催概要

名称

正式名称：2005 年日本国際博覧会
略称：愛知万博（EXPO 2005 AICHI）

テーマ

自然の叡智

サブテーマ

- 1) 宇宙、生命と情報
- 2) 人生の“わざ”と智慧
- 3) 循環型社会

開催期間

2005 年 3 月 25 日～9 月 25 日（185 日間）

会場

愛知県瀬戸市の南東部、長久手町の愛知青少年公園及び豊田市の科学技術交流センター予定地の約 173ha（海上の森、青少年公園、科学技術交流センター予定地）

事業費

本博覧会の準備及び運営に要する資金計画の総額は、「会場建設費」1350 億円、「運営費」550 億円とする。

入場者数

A. 目標入場者数

1500 万人

B. 計画基準日入場者数の考え方

目標入場者数 1500 万人は、1 日平均 8.1 万人の入場者数となるが、国内における過去の博覧会の実績から見ると、平均値とピーク値に大きな差が生じる。このことを踏まえて安全度を見込み、計画基準日入場者数（入場者数上位 10%の日の平均入場者数）を 15 万人と設定し、計画を策定する。ただし、観客輸送面、供給処理面等における環境負荷をできる限り抑制することを目指し、極力ピーク時入場者数の低減を図るため、平日における団体客誘致等の観客平準化に努力する。

(5) テーマとその展開

テーマ

自然の叡智 Nature's Wisdom

これまでに人類が獲得してきた経験と知識と知恵のすべてを傾けて、「自然の叡智」(自然が有している素晴らしいしくみ、生命の力)に学んで創る新しい文化・文明の在り方と、21世紀社会のモデルを、世界中の人々との多彩な交流を通じて実現する。

その中で、21世紀の人類が直面する課題の解決の方向性と地球や人類の将来の姿を見出していく。

サブテーマ

宇宙、生命と情報 Nature's Matrix

<テーマの展開例>

- 人類の考えた宇宙、地球
- これからのコミュニケーションと技術
- 人類の生存と生命科学

人生の“わざ”と智慧 Art of Life

<テーマの展開例>

- 自然とともにある暮らしの文化
- 時代を超えて受け継がれる芸術
- 技術と倫理、その歴史と未来

循環型社会 Development for Eco-Communities

<テーマの展開例>

- 21世紀の開発と自然保全、環境の再生の新しい在り方の提示
- 循環型、省エネルギー型社会システム構築の地球規模での提案
- 循環型、省エネルギー型の新しい地球市民ライフスタイルの提案